

リストラなどで失業した人が100万人以上、正社員への道が容易に見えないフリーターも150万人以上……。雇用の現場は不安定になるばかり。企業の都合に合わせていけば安定が得られる時代は終わった。そんな中で、自分の事情や能力に合わせてゆとり働ける場を作る「スロウワーク」の試みは、「これからの社会における新たな働き方を暗示しているのでは」との見方もある。2人の専門家に聞いた。

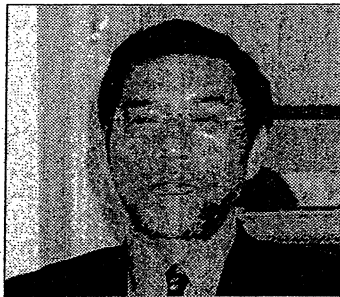
(企画報道室 松本 一弥)

——ホームレスの人たちに農業を教えるなどのスロウワークの試みをどうみますか。

「切り捨てられた人たちに向けて、国からの福祉予算などに頼ることなく具体的に働く場を創出してほしい」という試みは、一つひとつは小さなものだが素晴らしい試みだ。これらは一見すると極端なケースのようにも見えるが、実は、ごくふつうの大勢の人たちが現

在苦しんでいるリストラ

# 雇用の試み、国も見習え



大阪大学社会経済研究所 教授 小野 善康氏(50)

問題とも深いところで地続きになっている」

——といいます。

「市場原理至上主義を掲げる小泉構造改革は、容赦なく効率の悪い部分のリストラを押し進める。その結果、『スロー

ワーク』で取り上げられたような人たちだけでなく、働く意欲のあるふつうの人たちまでが職を失

い、能力がないというレッテルをはられてしまう。小泉政権は、効率的なIT産業が雇用を創出すると言って幻想をばら

自身も『能力がないからだ』と自分で自分を責めているような状態だ。

結果的に次世代を担う若者につらく当たっている」

——どうすればいいと考えますか。

すればその分は必ずほかの所が吸収・雇用してくれるとのストーリーを信じているようだが、その論理が通用するのは好況の時だけ。不況期にはまったく通用しない。新たなIT産業が雇用を創出すると言って幻想をばらまいたが、いまはだれもそんなことを信じてはいない」

「労働者に対して働く場を確保することこそが政府の仕事であり、生産資源である労働力の有効利用を図る、つまりは人をきちんと働かせることが経済政策の究極の目的だ。雇用創出に向けて政府はもっと具体的に知恵を絞るべきだ。新たな形で働く場を設けようとする『スロウワーク』のような試みを国は見習え」といいたい」

略歴 90年9月から現職。専門は理論経済学、国際経済学、産業組織論。主な著書に「景気と経済政策」「景気と国際金融」など。